

## 2022年度活動方針（案）

### はじめに

WE21は第二次世界大戦の反省に立ち、軍事力によるのではなく、人々が連携しともに信頼関係を築くことで実現する公正で平和な社会を目指してきました。

未だに世界のどこかで、戦争やテロが繰り返されていることに危機感を持ち、ビジョン・ミッションに基づいて声を上げていき、使命を果たしていきます。今回のロシアのウクライナへの軍事侵攻についても、ミャンマーの軍事クーデターについても、WE21は、市民社会の生存を脅かす存在に対し、WE21グループメンバーとともに、反対する意思を発信し、市民の連帯を促していきます。

2022年度はWE21の中期三か年計画の最終年度にあたります。現中期計画は、新型コロナウイルスのパンデミックにより当初から見直しを迫られる困難な開始となりました。また、WE21も設立から20数年がたち、社会状況の変化とともに、参加グループの解散が相次ぎ、自分たちの活動を見直す時期に来ています。2022年度はビジョン・ミッション・ゴールをもとに10年後のWE21を描きながら、次期三か年計画をグループとともにたてていきます。

WE21のビジョンを市民に伝え行動につなげるためにも広報の充実に力を入れます。新ホームページを活用し新たな共感者の拡大をします。

昨年度は財政基盤を整えるためのチャレンジの年と位置づけ、様々な設備投資を行った結果、その回収までには至らず、大変厳しい財政状況でのスタートとなってしまいました。

今年度はその厳しい状況を改善するために、資金調達会議の常設・実施をして財務改善に努めます。また、オンラインやバザーなどの自主事業を強化し、安定した経営を目指します。

### I 特定非営利活動に係る事業

#### 1 社会を変えるための市民力を高める活動

1-1 WE21のミッションである、環境、貧困、人権、平和を脅かす課題について、情報を発信し、声明や署名活動などを市民と協働して行う。これらの活動はNGOや市民団体、地域とともにネットワークして行う。

1-2 WE21のゴールである、環境や人間の安全に配慮した生活スタイルへの転換を目指し、責任ある生産と消費について、開発教材「今日はフェアトレードの日!？」を活用し、市民への共育活動を行う。

- ・ d-lab、教育機関でのワークショップで市民への行動変容を促す他、森育ちのしょうがパウダー版の活用により、WEショップからフェアトレードを地域市民へアピールするためのツールとしての活用を増やす。

1-3 (一社)サーキュラーコットンファクトリー(以下CCF)への参加が地球環境の持続化に寄与することを確認し、WE21独自の入り口から出口までの循環システムを構築する。

- ・WE21グループでCCFチームを結成し、地域でのイベントや、学校などで、生産と廃棄の問題についてともに考える講座などができるようにする。

## 2 資源のリユース・リサイクルを推進する環境事業

2-1 資源のリユースの新たな事業形態としてオンラインショップ事業が提示できるよう安定的な運営を行う。

- ・WE21グループ各ショップの参加を募り一緒に運営していけることを目指す。

目標：144万円 参加ショップ数10店舗

2-2 エコものセンターを活用し、寄付品の再資源化をはかり、市民が資源循環活動へ参加しやすい形態を作る。

- ・羽毛製品回収を拡大するために、羽毛製品作りから再利用に至るまでの流れを広報し、資源を循環させることで環境に適したエンカル消費を推奨する。全地域参加を目指す
- ・衣類から紙を作るCCFに参加し、溶解して紙を作る自然循環の活動をアピールして参加の仕組みづくりを進める。出来上がった紙をどう活用するか、「100人のプロジェクト」に参加し、グループメンバーとともに提案していく。WE21グループの参加と理解を進めるため製造現場の見学を企画する。回収目標：1トン
- ・つなぐ書店の「古本募金」を活用し、読み終えた本の有効活用としての情報を伝えてWE21への寄付につなげる。参加者目標数：50件

2-3 配送の企業組合ワーカーズコレクティブ・キャリーと引き続き契約し、エコものセンターの管理運営を行う。

- ・エコものセンターで「倉庫deバザー」を毎月開催し、周辺地域にWE21の活動を周知させていく。地域からのボランティアを募る。目標：17万円/回 新規ボランティア5名
- ・エコものセンターでの活動についてSNSを利用して広報する。

## 3 アジアの市民の力を高める民際協力事業

3-1. アジア地域を中心に、生活者・市民が主体となる地域開発を進め、顔の見える関係作りから信頼と連帯を築く。

- ・森育ちのしょうがパウダーのフェアトレードを推進し、フィリピンベンゲット州カパンガン郡の生産者の地域保健事業、生計向上を支援する。取り組み本数：2300本
- ・購入者や販売者を対象として、講座、オンラインイベント等を実施し、商品の理解を深めることで販路拡大を目指す。

- ・世界フェアトレード月間でのPR、夏冬のギフトセットキャンペーンを行い、販売促進に努める。
- ・WE21グループ外での販売に向けた検討、関係の深い団体へのアプローチを行う。

3-2 慶南地域自活センターとの友好協定に基づき、市民レベルの草の根の交流を深め、地域NPOや生活困窮者支援団体間の交流へ発展するようコーディネートする。

3-3 WE21グループの民際協力一覧を発行し活用する。

- ・WE21グループの支援先との今後の経験交流に活かす。
- ・「東日本大震災復興支援・ネットワーク神奈川」の幹事団体として、連携して被災地とのネットワークを強める。

#### 4 市民発の情報機能を高める事業、及び前項1, 2, 3に関する広報活動

4-1 横断的、総合的にWE21、WE21グループの総合力が見える化し、WE21グループ内での情報共有と、市民に向けたタイムリーな情報発信を行うための体制を整える。

- ・毎月事務局による広報企画会議を開催する。

4-2 ホームページはミッションを伝えるツールの基本であり、アクセスの6割以上がスマートフォンを利用するというwebサイトのアクセス分析からも、それに対応する新ホームページを開始し、運用を進める。

4-3 WE21グループのビジョンを発信する広報紙「めぐりめぐるNo. 82」を発行する。発行予定：11月

4-4 年次報告書は改善点の整理と検討を進め、次号に反映をめざす。従来どおり、外部団体や企業へ向けた渉外活動に活用するとともに、データ配信の検討をする。

4-5 WEフェスタは、コロナ感染症の状況からも従来型の実施は難しい状況。オンラインによる活動紹介等、企画全般を新たに検討し、開催の可能性を探る。

4-6 白リーフレットについて、情報の更新を行う。1年間を通し、オレンジリーフレットと共に活用方針等見直しを行う。

#### 5 その他、定款3条の目的達成に必要な事業

5-1 WE21設立から20数年がたち、社会の状況も、WE21の組織も大きく変化している。次期三か年策定にあたり、ビジョン、ミッション、ゴールに立ち返り、WE21グループとして、ミッション達成のための中長期計画を策定する。

5-2 事務局機能の充実を図るため、研修等で必要な専門スキルの習得を目指す。

- ・通年のインターン・ボランティアの参加を募り、協働を進める。

5-3 事務局内に資金調達会議を作り、前年度のファンドレイジングスクールでの学びを活かし、財政基盤強化に努める。

- ・会員・寄付者へのアンケート調査を行い、既存の会員・寄付者層の強化のための戦略を作成する。
- ・バザーイベント、オンライン販売事業、フェアトレード事業の収益性増加を目指す。同時にミッション性も高め、「社会課題へのお買い物での市民参加」の側面を強める。
- ・書き損じはがきや未使用切手、古本募金などのもったいないをつなげる寄附を増やす。

5-4 WE21グループとのネットワークを進めるため、WE21グループ会議の事務局を担い、WE21グループの課題を共有し解決につなげる。今年度は中長期計画の議論をグループで共有する機会を設ける。

- ・環境事業調査や、貧困や平和、人権などにかかわる調査・研究を意思あるグループメンバーとともに協力して行う。
- ・WE21グループの活動に有益な情報を収集・発信をできるよう、WE21グループ代表メーリングリスト(緊急メーリングリスト)をさらに活用する。
- ・日本チャリティショップネットワーク(JCSN)(以下JCSN)、(特活)日本国際協力NGOネットワーク(JANIC)(以下JANIC)に参加し、WE21グループメンバーと情報をつなげる。
- ・基礎研修をWE21のリユース・リサイクル環境事業、民際協力事業、広報事業の基礎を学べるように企画する。

5-5 企業・団体、協同組合、大学、行政、市民団体との連携を推進し、情報を集め協力して課題解決力を高める。

- ・(特非)横浜NGOネットワーク(YNN)、JCSN、JANICなどに参加し、NGO同士の情報共有と連携を進める。
- ・公益財団法人生き生き市民基金、遺贈・寄付相談市民ネットと寄附社会を広める活動を行う。今年度は、遺贈・寄付相談市民ネットと連携して「遺贈・寄附学習会」を開催する。
- ・11月に開催される「東日本大震災・復興支援まつり2022」に参加する。
- ・生活クラブエンパワメント連絡会、公益社団法人フードバンクかながわと貧困問題に対して連携する。